（毎日の記述）

記述練習プリント１

日付　　月　　日

氏名

得点

下林国語教室
小学５・６年生

1　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

私などは、いくら本や映画が好きでも、同じものを三回も目にすると、「もう、わかっているよ」となるのだが、世間には何度でもそこから新しさを発見できる人がいる。文豪※バルザックを研究するフランス文学者、私市保彦氏は、あるところで「私は今までにバルザックの著書『ゴリオ爺さん』を何十回となく読んできたが、そのつど今までにない発見があって、新鮮な気持ちにさせられる。」と語っている。こうした話は人とのつき合いでもよく聞く。何十年と交際してきた親友でも、つき合うたび新しい面に気づかされるなどということである。

これらは作品や人間がどんなに奥深いか、そして、優れた人物がいかにそれらをつかむ意欲と能力に長けているかを示すものであり、私のような凡人は他所のこととして、ただただ恐れ入るしかない。

しかし、こうしたものの対極に、作品や人間とのつき合いでも、何度もふれて少しずつ分かるということが許されず、ただの一度がすべてという世界もある。私がたずさわっているテストの文章の「読み」もそれで、一回でどれだけ作者の主張が正しく読み取れるかが問われるものであり、「何度読んでもそのつど新しい発見がある」というものとはまったく異質なものである。

テストの文章の読み（特に入試の場合）はスポーツにたとえると年間百試合以上戦って総合計で勝敗が決まるプロ野球の公式戦のようなものでなく、ただ一つの試合に敗れると※「ジエンド」となるワールドカップの※トーナメント戦のようなものである。各回すべてが後のない真剣勝負である。

人とのかかわりでも、日常的に相手に接し、そのつど理解と親交を深めていくものと違い、ただ一度で、自分を正しく伝え、相手を確実に理解しなければならぬものもある。セールスの場合がそうである。また、お見合いでも、自分を断ってきた相手に、「あなたは私を誤解しています。つき合っていけば私のよさがわかってきます。」などと言うことは許されないのである。

生き残りをかけて、セールスマンの「出会い」の能力を高める訓練が盛んである。受験生にとっては、限られた時間内で、作者の文章に出会い、作者の主張を正しく理解していく能力の向上が求められる。暮らしに勉強に「一度の出会い」を大切にし、真剣に対象と向き合っていこう。

※　バルザック…十九世紀のフランスの小説家。『ゴリオ爺さん』はバルザックの代表作。

※　ジエンド…「終わり」を意味する英語。　　※　トーナメント戦…勝ち抜き試合。

読みに要した時間

問一　この文章に題をつけなさい。⑤

問二　入試の文章の読みはワールドカップのトーナメント戦にどういう点で似ているのですか。わかりやすく説明しなさい。⑩

問三　この文章を百五十字以内でまとめなさい。⑮